

令和元年6月24日現在

機関番号：32675
 研究種目：基盤研究(B) (一般)
 研究期間：2015～2018
 課題番号：15H03233
 研究課題名(和文) 18～20世紀の糸・布・衣の廉価化をめぐる世界史

研究課題名(英文) Linking Cloth-Clothing Globally

研究代表者

杉浦 未樹 (SUGIURA, Miki)

法政大学・経済学部・教授

研究者番号：30438783

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：素材毎、製品段階毎、地域毎、に分断して叙述されてきた繊維製品の歴史を、繊維横断的に、繊維・糸・布・衣・古着までの生産・消費・再消費・再生までを視野に、グローバルなつながりを重視して描きだした。布と衣服の廉価化のプロセスの解明につとめ、奴隷衣などの低廉布衣の成立過程を明らかにした。また、生産過程で生じる廃棄分(waste)や既使用分の再活用に着目し、交織、絹屑糸、レース、染め直しなど新視点に立脚する研究群を打ち出した。期間中に15回のテーマ研究会、10回の国際シンポジウム、8回の国際学会パネルを実施し、英文論文集とジャーナル論考をはじめとした諸成果を既刊し、さらに準備中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

歴史学、経済・経営学、服飾史、美術史、文化人類学、カルチュラル・スタディーズなど幅広い領域の研究者の相互交流を図り、プラットフォームとなり、情報のデータベース化をすすめた。「糸・布・衣」を扱うことで、モノの循環を世界史として叙述し、それらのグローバル化をめぐる諸問題に新しい見方を提示した。「糸・布・衣」という表現を通して、原料調達からファッション流通、再利用まで繊維素材のあらゆる形態に着目すること、裁断や縫製を経ずに布や衣が使われ、纏われる非ヨーロッパの広い地域からの視点、異なる繊維素材を「跨いで」用途を見据えて考えることを提案した。

研究成果の概要(英文)：The project “Linking Cloth-Clothing Globally (LCCG)” aims to describe 18th-20th century’s interconnected history of textile fibres, threads, textiles and garments from global perspective. The globe shared and circulated increasingly cheaper commercialized cloth and clothing in 18th-20th century. This project sees penetration of cheaper cloth or clothing not as a simple and automatic process but as a process that accompanied structural changes in the global commodity chains, as well as transformations in the dress value systems in local, regional and global level. The project aims to describe that process focusing mainly on 1700- 1970. So far, it has sheds lights on 1. Popularization process and materiality on a global scale, 2. Mixed fabrics and other diversifications of textile products, and 3. Dynamisms of Textile waste, by-products and re-circulations. During 2015-2019, LCCG has held more than 15 study meetings, 10 symposiums, and 8 session panels at academic associations.

研究分野：経済史、世界史

キーワード：繊維 織物 糸 布 衣服 グローバリゼーション 世界史 ファッション

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

繊維製品は、人類が作り出したモノの中で、最も価値および種類の多様化が進んだ製品といえる。しかし、その多様性の発展は、歴史叙述に必ずしもうまく取り込まれていない。繊維製品の歴史叙述は、糸・布・衣の段階で分断し、毛・麻・絹・綿・合成繊維と繊維毎に扱われてきた。これらの分断は、地域間の比較史やグローバルヒストリー（世界史）においても継承された。しかし、この分断は、多様な品質を精査することにはつながらず、むしろ分析単位を大雑把にする傾向を生み出した。例えば、綿織物は、産業の地域間比較が昔からさかんで、また二〇〇年以降、インド洋交易綿布を中心にダイナミックな世界史叙述が進められてきているが、多様な商品種をもつ綿布を、安価か高級か程度の大雑把な区分で括ったまま、地域間のダイナミズムを「導入や移転」、「模倣」、「輸入代替」をロジックに描く傾向がある。衣服では、「廉価化（単価が低廉な衣の登場）」と「衣服スタイルの広域共有や消費（とくに洋装化）」とが、グローバルな歴史現象として挙げられる。その際、より広い地域の消費者が「同じ」衣服を新品として消費し、供給側もそれを目指して大量生産体制を作り出した側面がもっぱら強調され、ファッションの需要供給構造はヒエラルキーの強い一極構造として把握される傾向がある。しかし、こうした世界史の描き方は、ここ数世紀間に進展してきた繊維製品の多様化をとりこまないものとなってしまう。衣服と括らず、布や繊維レベルを視野に入れてその品質を検討すれば、廉価化や衣服スタイルの共有について、一極構造に限られないつながりが見出せるであろう。同時に、上記の世界史の描き方は、もっぱら新品を消費できた人々のみを取り上げ、そのほかの多くの人々を除外する点も留意すべきである。洋装化を例にとっても、新品として消費購入するほかに、制服としての給付や強制・自家製品・再流通品といった方法を通して人々は衣服スタイルを共有し、また導入初期や大量普及期では共有のありかたも異なった。ここでも繊維製品の様々な流通段階の取り込みが必要になる。このような経緯から本研究を着想した。

2. 研究の目的

本研究は、繊維・糸・布・衣・古着で分断せずに、繊維製品の世界史を描く方法を探求することを目的とした。一七世紀から二〇世紀までを中心とし、日本の経験を軸にしたが、イギリス、アイルランド、イタリア、フランス、オランダ、エジプト、トルコ、南アフリカを専門とする歴史家・文化人類学者が核となり、他の地域（ロシア・インド・東アフリカ、西アフリカ、メキシコ、北米など）を専門とする研究者と協力した。もともと、それらの地域の繊維製品の展開を網羅するだけではなく、世界的視点からの繋がりを探ることをめざした。具体的には以下の4つを作業目標に設定した。

- (1) 研究史を整理し、歴史叙述の問題点を、空白となってきた地域と事象を特定し明らかにする。
- (2) 分断を超えた点からの価値変遷の指標として、布では、使用価値に立脚する「ラベル」に注目し分析する。衣も、女性服・男性服、カジュアル・ラグジュアリーといった大きな分類ではなく、非ヨーロッパ地点で生じたラベルやカテゴリーに注目し、オブジェ・ベースで分析する。どちらも、最高級ではなく、普及品・低廉品のラベル・カテゴリーを重視する。このように使用視点からの価値形成とそれを可能にした素材構成や技術的背景に着目することを「マテリアリティ(物質性)」と呼び、アプローチ方法を確立していく。
- (3) 分断を超えた点から価値変遷のダイナミズムを明らかにするナラティブ・モデルとして「混紡・交織 (Mix)」と「廃棄分(Waste)の活用」という二つの新視点を提案する。
- (4) 以上の点をふまえて、17~20世紀の糸・布・衣の世界循環図を共著で提示する。

3. 研究方法

本研究は、共同のイベントを積極的に開き、外部とつながるプラットフォーム構築をしながら研究を推進する手法をとった。外部講師を招く研究会を各年度3-4回開催し共同議論した。を共同・個人での調査を海外では、イギリス・オランダ・インド・スイス・フランス・イタリア・エジプト・トルコ・南アフリカ・北米・シンガポール・インドネシアで実施し結果を共有

し、国内でも群馬試験場で繊維識別法を学ぶなど集団調査を行い、データ整理や分析手法を議論した。外部への発信を強く意識し、各年度1回の国際シンポジウムや学会参加を計画した。ネットワークが発展したことと、代表者が国際共同加速基金を得たことで、計画がさらに拡大し、合計25回程の国際シンポジウムと学会パネルを国内外で半々に開催できた。

4. 研究成果

(1) 循環史の提唱

まず、繊維製品の素材・糸・布・古着の諸段階を意識する姿勢を「循環史」と提唱した。繊維製品の諸段階を意識する姿勢を組織に反映させ、当初、糸（井上）、布（竹田）、衣（後藤・角田・鈴木）・古着（杉浦）・美術工芸品（鶴飼）へ担当を分け、お互いに交流しあった。結果、繊維素材から製品までの諸段階を強く意識して、具体的には①麻綿—低級布—奴隸衣（竹田・杉浦）、②絹屑糸—ヴェルヴェットなどの布—銘仙（井上）、③絹麻—レース（角田）、④紙革—金唐紙（鶴飼）の繋がりや、衣服における標準化、既制服の成立、輸出、洋装化の諸段階、古着など再流通といった複層的な流通循環を扱った（鈴木・後藤・杉浦・角田）論考を刊行できた。また、「循環史」の意図に、地域間交流を二項対立的にではなく循環としてとらえる姿勢も含めた。この点からは、ヤボンセ・ロックやバニヤンなど一六・一八世紀の小袖他の和装と関連した着装を、従来の日英蘭からの視角を深め、さらにポルトガル・東南アジア・インド・中国・中南米の視角も加えて捉える研究（鈴木・杉浦）を行い、また、一九世紀末から二〇世紀末の中東・日本の洋装化を比較する研究（後藤）、アフリカへの繊維製品輸出をめぐる国際的競争を商品の詳細な分析を通じて再構築する研究（鈴木・杉浦）も遂行した。これらによって、非ヨーロッパ基点を強調した地域循環の新たな諸相を提示できた。

(2) 使用価値

一方、繊維横断的なアプローチを追求したことからは、以下3つを提唱する。第一が使用価値(Use Value)の側面である。コットン・リネン・ギンガムなどのラベルが繊維を超えて成立することを追求し、複数の繊維が関わる過程を明らかにした。また、オランダやアイルランド等において、素材の異なる織物業を別々に扱わず相互関係に注目し、素材横断的な分析を行い、そこから、当時の織物の性質（厚／薄、重／軽、毛羽立ちなど）とその具体的な消費／使用形態を結び付け、使用価値を明らかにした。

(3) ミックス—交織と多様化—

第二が繊維内・繊維間のミックス(Mix)の側面である。今日の織物生産は、異なる種類の繊維をまぜて新しい仕様を作り出す合成繊維が過半を占める。天然繊維と合成繊維の歴史は、断続的に扱われる。しかし、繊維が新たな組み合わせで混ぜられ新製品ができるという在り方は変わらないとして、繊維内・繊維間のミックスに注目し連続的な視角で繊維をみることを試みた。繊維のミックスを二つの側面からアプローチした。一つめは、麻・綿などの同じ繊維内で粗／細など品質の異なる複数の糸が生じ、混ざる点である。例えば、目の細かい糸を作り出すとする過程で、廃棄分となる繊維部分(Waste)の量や構成が変わる。廃棄分の活用から品質の異なった糸が生み出され、それに即ず商品が生まれる過程が繰り返されてきた。本研究では、近世期における軽く薄い布地への需要の高まりが、多様な質の絹や麻の糸を生み出し靴下・リボン・レース・ニット産業の興隆につながった過程や、その後、絹屑糸(Silk Waste)が確立しヴェルヴェット、リボン、緋、銘仙などの一連の商品を東西で生み出した過程を追求した（井上）。二つめは、異なる繊維の混紡、交織である。近世北西ヨーロッパにおいて、リネンやコットンと称された布は、麻綿交織・混紡であったことが確認されつつある。しかし、織物業史において亜麻から綿への移行が打ち出されているため、こうした交織は過渡期にあり、不足故の代用との見方が強く重要視されてこなかった。これに対して、本研究では、交織を軸に繊維製品の多様化を、繊維横断的に描き出す方法を追求した。結果、繊維製品の技術背景・マテリアリティ・使用意図・価値分化を、新鮮な視点から提示した。

(4) マルチー複数繊維の併存

第三に、上記の点に強く関連して、「マルチ(Multi)」、すなわち複数繊維の併存の意義を追求した。オランダ・フランス・イギリスなどでは織物産地を繊維毎に叙述する傾向があるが、産地の多くは実際には複数の繊維を扱う。後期に織物業に参入した地域は、マルチな選択肢がある中で複数繊維を選ぶ傾向がある。そうした展開を日本・中欧・アイルランド・ロシアなどで追求した。また、東アジアと北西ヨーロッパについて、2つの繊維を主とするシステムから、4つの繊維を併存させるシステムへと移行したと、大きな枠組みを設定して比較した。

(5) 繊維製品の価値形成

これらの枠組みの再設定を提案しながら、本研究は繊維製品の価値形成を追求した。特に、大量生産や安価な労働確保といった供給側の事情以外で、繊維製品の廉価化に影響を与えた事象を検討した。ド・フリースの「新奢侈品 (New Luxuries)、) フェアチャイルドの「大衆奢侈品(Populuxe)」といった広い層が購入する新しいタイプの奢侈品の成立を、具体例から再検討し、洋装化の諸段階をち密に再構築することで、こうした概念がどの程度あてはめられえるのかを明らかにしていった。また、近世北西ヨーロッパにおける半奢侈の筆頭例である「軽布 (Lighter Fabrics)」の技術的連環を解明し前の時代や他地域の製品とのつながりを複層的に示した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 13 件)

1. Miki Sugiura, 'Value', *Textile History* 50/1, forthcoming August 2019, 査読有
2. Miki Sugiura 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in *Business History*, 61-1, 2018,106-121 査読有
3. 鵜飼敦子「芸術の普及者エミール・ガレー「東洋」から学んだこと」『アール・ヌーヴォーガラスの世界展』, 松坂屋名古屋店, 4-7 頁, 2019 年 査読無
4. 鵜飼敦子「エミール・ガレーと「東洋」—自作品解説書の比較をとおして」『アール・ヌーヴォーガラスの世界展』, 松坂屋名古屋店, 4-7 頁, 2018 年 査読無
5. 井上直子「機械制絹糸紡績とファッションの民衆化 1790-1930」『城西大学経済経営紀要』第 36 巻 (2018 年 3 月) 査読有
6. 鵜飼敦子「ナンシーの園芸文化とエミール・ガレー」『アール・ヌーヴォーガラスの世界展』, 松坂屋名古屋店, 4-7 頁, 2017 年 査読無
7. UKAI Atsuko, *Global Art History of Paper and Leather craft*, Wybe Kuitert edit. "On World Expos and East Asia" *Journal of Environmental studies* vol.60, pp. 15-24, Seoul National University Press, 2017 査読有
8. Izumi TAKEDA, "A Framework for a New Understanding of Pre-industrial European Textiles" 『経済研究』成城大学、218 号、2017 年 査読有
9. 杉浦未樹「近世商都アムステルダムと商人邸宅街 —都市拡大と商人集団の集住をめぐる—」都市史研究-4, 山川出版社, 115-122 頁, 2017 年 査読無
10. Miki Sugiura, Editor's Note: Alternative Perspectives for Global History of Coffee and Tea, *Journal of International Economic Studies*, 32-2, 2017, 55-59 査読有
11. 角田奈歩「「モード都市」パリのファッション産業前史」, 『Fashion Talks...』, 3 号, 2016 年 6 月, 12-20 頁 査読無

[学会発表] (計 25 件 ただし主催・共催パネル・シンポを中心とし、同じ場で複数が発表した場合も、1つに数えた件数であり、実際の関連発表数はそれより多い。)

1. 主催会議 "Textiles and Materiality: Mixing Fibres between East and West, 16th-20th Centuries", 2019 年 3 月 15 日 The University of Warwick in Venice, Italia : 竹田泉、角田奈歩、井上直子、杉浦未樹他 8 名が発表
2. 主催会議 Globalization of Sportswear: Brand Marketing, Technology and Cultural Agenda, c.1880-2010s, (2019 年 2 月)ウオーリック大学 後藤絵美、杉浦未樹他 6 名が発表
3. 主催会議 Ordinary Blues and Uniformed Reds: Colours and Clothes in Circulations, ウオーリック大学(2018 年 11 月)杉浦未樹、後藤絵美他 6 名が発表。
4. 学会発表 "上海万国博覧会「世博会博物馆」" 上海高等研究院,(2018 年 11 月)鵜飼が発表

5. 主催研究会(2018年9月12日) Roundtable History & Design Kosode & Banyans: Contested World Views in an Attire c1580-1910, University of Warwick, U.K. 鈴木桂子、杉浦未樹他5名が発表
6. 主催会議(2018年9月) History & Design Roundtable: Printed Textiles for West Africa. c1860-1980s. Low Countries, Scotland, Switzerland, Japan and their Global Connections, ルーヴァン大学 (2018年9月4日)鈴木桂子、杉浦未樹他5名が発表
7. 学会パネル WEHC 2018 Popularizing Fabrics and Clothing, 17th to 20th centuries: Materiality, Value Formation and Technology (2018年8月) Boston MIT 井上直子・杉浦未樹他4名が発表
8. 学会パネル ESSHC (2018年3月) Shaping, Dyeing, and Mixing Wool, Linen, Cotton and Silk: Textile Production and Consumption in Europe 1670-1830 を主催、杉浦未樹他3名が発表
9. 共催会議 (2017年10月) 立命館大学 Textile Pattern Designs in the Global Entanglement: Katagami, Batik, Sarasa and 'African Prints' on the Move, 1800-2000 (染色デザインの世界的連環: 型紙、バティック、更紗、「アフリカン・プリント」を中心に)』を主催。鈴木桂子・杉浦未樹他6名が発表
10. 主催会議 Global Costume: Contested World Views, Workshop Connecting Global Costume and Global Art, 東京大学(2017年8月3日), 杉浦未樹他3名が発表。
11. 主催会議 Global Costume: Kosode, Dofuku, Banyan, Kebaya and Japanese Rok 1500-1850. A dialogue of Global Circulation between Art History, Economy and Material Culture、九州大学、(2017年7月29日) 鈴木桂子、杉浦未樹他11名が発表
12. 主催会議 Global Circulations and Transformations: Art and Textile in East Asia 1540-1760, 京都工芸繊維大学(2017年7月26日) 鶴飼、杉浦未樹他5名が発表
13. 主催研究会 "Writing for International Readers / Journals Workshop II "History of Dress in Global Perspective"、法政大学 (2017年6月13日): 杉浦未樹・後藤絵美・安城が発表
14. 主催会議 "Popularizing Fabrics and Clothing: Reconstructing What was What of Fabrics and Dress 1600-1930", 2017年6月10日 法政大学: 飯田、井上、角田奈歩、竹田泉他6名が発表。
15. 主催会議 Popularizing Fabrics and Clothing: Kyoto Yuzen Industry in Broader Context 1600-1970 (立共催研究会 Third Kansai Workshop on Global Fashion Business: Textile Industry and Fashion Business in the 19th and 20th centuries: International Comparison, 京都大学 (2017年3月) 井上直子、鈴木桂子、杉浦未樹他6名が発表。
16. 立命館大学アート・リサーチセンター (2017年6月3日) 井上直子他5名が発表。
17. International symposium "Expo Landscape" Graduate School of Environmental Studies, Seoul National University, November 2016. 鶴飼が発表。
18. 主催研究会「スイスー日本 世界的な絹の繋がりをめぐってー19世紀以降を中心に」(法政大学 (2016年10月) 井上直子他3名が発表。
19. 国際学会発表 Association for Asian Studies in Asia, Kyoto 2016, 鈴木桂子が発表。
20. 学会 Dressing Global Bodies, Alberta (Canada): University of Alberta, July 2016. 後藤絵美、鈴木桂子、杉浦未樹、井上直子、安城他8名が別々のパネルで発表。
21. 学会 Society of History of Technology (SHOT) 2016 シンガポール大学 Session 'Fashion and Technology: Consumers, Democratization of Luxury and New Technologies' (2016年6月): 杉浦未樹・井上直子他3名が発表
22. 主催会議「20世紀日本ファッション産業の仲介者たち」(於立命館大学アート・リサーチセンター(2016年6月) 角田奈歩・井上直子・杉浦未樹・鈴木桂子他8名が発表。
23. 主催会議 Transcending Fibers and Regions: Global Manufacture and Circulation of "Cheaper" Cloth-Clothing, 17th-20th Centuries", (2016年3月) EHESS, Paris, France, 杉浦未樹・竹田泉他3名が発表
24. 学会パネル WEHC2015 Kyoto (2015年8月) 杉浦未樹・井上直子他8名が発表
25. 主催会議 "Linking Cloth-Clothing Globally: 18-20th Century Mapping", 東京大学 (2015年7月-8月) 竹田泉、杉浦未樹、角田奈歩、井上直子、後藤絵美、鈴木桂子他12名が発表

[図書] (計13件)

1. Miki Sugiura, Giovanni Favero, and Michael Serruys eds., *The Urban logistic network. Cities, Transport and Distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times*, Palgrave, forthcoming, 2020 Autumn
2. Miki Sugiura, *Cities and Inland Distribution. Merchants' Functional Divisions between Early*

Modern Amsterdam and its Hinterlands, in R. Lee and P. McNamara eds. *Port Cities and Hinterland*, Routledge, forthcoming 2020 Spring、頁未定

3. Miki Sugiura, 'Garments in Circulation: The Economies of Slave Clothing in the Eighteenth-Century Dutch Cape Colony, in B.Lemire and G.Riello eds, *Dressing Global Bodies*, Routledge, forthcoming 2020 Spring 頁未定
4. 角田奈歩「モード」, 上垣豊編著『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』(ミネルヴァ書房 2019年出版予定), 頁未定
5. 竹田泉「18-19世紀イギリスの綿製品消費とジェンダー: グローバル史の視点から」 浅田進史他編『グローバル経済史にジェンダー視点を接続する』日本経済評論社、2019年予定
6. Miki Sugiura ed., *Linking Cloth/Clothing Globally: The Transformations of Use and Value, c.1700-2000*, Hosei University Publishing, 2019 内所収: 竹田泉、杉浦未樹、後藤絵美、井上直子、鈴木桂子の章
7. 杉浦未樹「アフリカンプリント物語 ファッションのグローバルヒストリー」上智大学アメリカ研究所、ヨーロッパ研究所編『グローバルヒストリー入門』2018年
8. 杉浦未樹「布と衣の世界史構築とグローバルヒストリー」羽田正編『グローバルヒストリーの可能性』山川出版社、2017年。
9. 水井万里子・杉浦未樹・伏見岳志・松井洋子・太田敦編 (共著)『女性から描く世界史 17~20世紀への新しいアプローチ』、勉誠出版、2016年。
10. 角田奈歩「モード界の「ナポレオン」とオート・クチュールの起源」, 徳井淑子・朝倉三枝・内村理奈・角田奈歩・新實五穂・原口碧『フランス・モード史への招待』悠書館 2016年。31-70頁
11. 水井万里子・杉浦未樹・伏見岳志・松井洋子編 (共著)『世界史のなかの女性たち』勉誠出版、256頁、2015年7月。所収 杉浦未樹・後藤絵美の章を含む
12. 後藤絵美・鵜飼敦子 (共著)『輪切りで見える! パノラマ世界史4 大きく動き出す世界』羽田正監修, 大月書店, 40頁, 2015年8月。担当: 1800年と1918年, コラム「洋服の歴史」,
13. 鵜飼敦子「万国博覧会を飾った日本の革と紙—ジャポニズムを越えて」『万国博覧会と人間の歴史』思文閣出版, 427-443頁, 2015年

[その他]

新聞・雑誌記事

井上直子「イゾンツォ川流れる町での出会い: ファッションの民衆化を進めた絹紡糸」(上毛新聞 2017年10月18日 特集記事「旧新町紡績所(国重文、国史跡) 開業140年 明治の息吹今も」見開き2面) 2018年8月24日「伊勢崎銘仙後世に: 図書館資料デジタル化、図案見本や専門誌研究者注目」、2019年2月28日「三山春秋」絹糸紡績や銘仙の歴史、デジタルアーカイブ 制作などについて井上直子が答えたインタビューに関する記事。

ホームページ等

<http://www.lccg.tokyo> [糸布衣の循環史研究会]

<https://warwick.ac.uk/fac/arts/history/ghcc/ghccpeople/members/visitingsscholar>

<https://warwick.ac.uk/fac/arts/history/ghcc/event/events/roundtablehistorydesign/>

<http://shot2016.org/home.php>

<http://www.dressingglobalbodies.com/#theconference>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：鈴木 桂子
ローマ字氏名：SUZUKI, Keiko
所属研究機関名：立命館大学
部局名：衣笠総合研究機構
職名：教授
研究者番号（8桁）：10551137

研究分担者氏名：竹田 泉
ローマ字氏名：TAKEDA, Izumi
所属研究機関名：成城大学
部局名：経済学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：20440216

研究分担者氏名：後藤 絵美
ローマ字氏名：GOTO, Emi
所属研究機関名：東京大学
部局名：日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
職名：特任准教授
研究者番号（8桁）：10633050

研究分担者氏名：角田 奈歩
ローマ字氏名：TSUNODA, Nao
所属研究機関名：東洋大学
部局名：経営学部
職名：准教授
研究者番号（8桁）：10623209

研究分担者氏名：鵜飼 敦子
ローマ字氏名：UKAI, Atsuko
所属研究機関名：東京大学
部局名：東洋文化研究所
職名：特別研究員
研究者番号（8桁）：30584924

研究分担者氏名：井上 直子
ローマ字氏名：INOUE, Naoko
所属研究機関名：城西大学
部局名：経済学部
職名：准教授
研究者番号（8桁）：80727602

研究分担者氏名：飯田 巳貴
ローマ字氏名：IIDA, Miki
所属研究機関名：専修大学
部局名：商学部
職名：准教授
研究者番号（8桁）：00553687

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：上田 文
ローマ字氏名：UEDA, Aya
研究協力者氏名：安城 寿子

ローマ字氏名：ANJO, Hisako
研究協力者氏名：森永 貴子
ローマ字氏名：MORINAGA, Takako
研究協力者氏名：塩谷 昌史
ローマ字氏名：SHIOTANI, Masashi
研究協力者氏名：伏見 たけし
ローマ字氏名：FUSHIMI, Takeshi
研究協力者氏名：John Styles
ローマ字氏名：
研究協力者氏名：Beverly Lemire
ローマ字氏名：
研究協力者氏名：Giorgio Riello
ローマ字氏名：
研究協力者氏名：Alexander Schwarzenbach
ローマ字氏名：
研究協力者氏名：Irina Potkina
ローマ字氏名：
研究協力者氏名：Philip Sykas
ローマ字氏名：
研究協力者氏名：Ariane Fennetaux
ローマ字氏名：